

プール巡り

川上 宏

趣味はプール巡り。本当は水泳といたいところだが、趣味と公言できるほどはうまくなく、下手の横好きから一步も出ない。

三県境のすぐ近くの埼玉県に住んで四十余年、地の利をいかして埼玉県、群馬県、栃木県、茨城県のプール巡りを楽しんでいる。コロナ禍の時は、県・市町村によって閉鎖されたり、入場制限がされたが、規制のゆるい施設を探し出して泳ぎを続けた。

◇群馬県館林市城沼市民プール（屋外）

市民プールでは基本、刺青・タトゥーを施している人は入場禁止である。しかし、城沼市民プールでは、刺青・タトゥーをしている人も自由に入館できた。ただし二十数年前の話。今はどうか分からない。館林市は群馬県大泉町とならんで、日系ブラジル人、南米出身者を多く受け入れてきて、その辺の事情を考慮したのではないかと思う。タトゥーをした南米出身者と思われる人たちが、日本人に交じって水泳を楽しんだり、甲羅干しをしていた。

ふと少年時代の銭湯の光景が頭をよぎった。わたしが幼年時代を過ごした浅草の銭湯では、入れ墨をした若い衆、年寄たちを、普通にみかけた。職業もチンピラ、職人、大工の棟梁とさまざまだった。だか

ら、プールでタトゥーをした人たちを見ても、それほど驚いたりはしなかった。

ぶったまげたのは、ある夏の日のことだった。幼児用プールで若いビキニの女性がこちらに背を向け、幼子たちと水浴びに興じていた。長い黒髪、雪のように白く、絹のような滑らかな肌が炎天下にまぶしかった。そして背中には極彩色の弁天様の彫り物が……。女のひとの彫り物を直で見たのははじめてだった。まるで谷崎の『刺青』の世界ではないか。頭がクラクラしてしゃがみこみそうになったのは、強い陽射しのためだけではなかったようだ。

◇茨城県古河市スポーツ交流センター モータープールのお話

駐車場のクルマをあらためて観察すると二極化しているようだ。軽自動車が半分以上を占めるが、ベンツのCクラスやBMW3シリーズ、国産車では、トヨタクラウン・レクサスなんかが並んで停めてある。二時間四百円の市民プールではなく、もつと高級なスポーツジムにでも通えばと思うのだが、東京にあるような気の利いたスポーツジムが近辺にないからしょうがないと思う。

高級車に乗るドライバーは、団塊の世代と思われるジジイが多いよ

うに思われる。恰好はというと、高級車にふさわしいファッションとは真逆のジャージ、着古したひと昔前のスタジアムジャンパー、サンダル履きが多い。私の想像だが、この爺さんたち、若い頃はカーマニアだったのではないか。食べたいものを食わずに小遣いのため、週末に中古で買った軽自動車のホンダN360とかスバル360を乗りしていた光景が目につかぶ。本当はベレットGTとか、スカイライン2000GTに乗りたかったが、所詮高値の花。「いつかはクラウン」ではないけれど、若かったころに果たせなかった夢を、年金生活者になってから実現させたのだろう。（※個人的な見解です。筆者は団塊の世代ではありません）

◇久喜市鷺宮温水プール

コロナ禍で、茨城県、栃木県のプール施設が一斉に休館となったが、埼玉県久喜市鷺宮温水プールと菖蒲温水プール・アクレは条件付きでオープンしていた。

地の利がいい鷺宮温水プールに通ったが、必ず来ている爺さんがいた。同じ時間帯に利用するので偶然かち合うのだろうと時間をずらしなくてもやっぱり来ている。いつ入館して退館するのか。まさか一日いるわけではあるまい。なんとなく妖怪子泣き爺に似ている。いつも必ずいるということが不思議でならない。鷺宮の七不思議。

プールに来ているのは、ほとんどがシニアの常連さん。名前もお住





まいも知らないがみんな顔見知り。口に出しては言わないが、かつてに愛称をつけている。ゴーグルをつけるとそっくりなので遮光器土偶さん、水中でのシルエットから連想してトドさん、水面の手足の動きからゲンゴロウの源さん。

泳げないのか泳がないのか、ウォーキングに特化した方々もいる。両腕をSLの連結棒のように、前後に振って歩くシュツポさん、顔を天井に向け手足を直角に曲げて歩行する姿から、エリマキトカゲさん等々。

かくいう私、まわりからどう見られているか。

◇旧台東区立清島小学校のプール

夏が来て、小・中学校のプール開きが話題になる頃、思い出すことがある。小学四年生の時だった。天気は晴れ、体育の授業が水泳になったので、用意してきた水着を教室で着替えていたら、すみっこの方でモジモジしているヤツがいた。「早く着替えてプールに行こう」と彼を促し、何気なくその子の手元を見たら、肌色の毛糸のパンツが握られていた……。

彼の家は母子家庭で貧乏だった。水着を買ってくれと母親にせがんだがそんなモノ買うお金なんかないよと一蹴され、かわりに姉のセーターをほどこいて海水パンツに編みなおしてくれたらしい。

プールサイドで準備体操をする、毛糸のパンツを穿いたS君。その

光景は今でも忘れないが、悲劇はそこで終わらなかった。

教師の掛け声で一斉にプールに飛び込んだが、彼のパンツは水を吸ってふやけてしまい、授業が終わる頃には、肌がすっかり透けて見えるようになっていた。昭和三十年代「もはや戦後ではない」という経済白書のことばが話題になっていたが、台東区の片隅にあった小学校には、戦後の貧しさから抜け出せない人たちがいた。

◇ふたたび旧台東区立清島小学校のプール

翌年のプール開き。クラス仲間の期待を裏切って、S君海水パンツを用意してきた。ただ、いわゆるスクール水着とよばれる紺色の海水パンツではなく真つ黄色な水着だった。どうも浅草の古着屋カバッタ屋で入手したものらしい。

S君、誇らしげに水に飛び込んだが、決して上手ではなかった。なんとか水に浮いて手足を動かすのだが、動かすたびにお尻が水面に沈んだり浮いたり。当時はまだビートルズの〈イエローサブマリン〉という楽曲は存在しなかったが、黄色い潜水艦がプカプカ浮いたり沈んだりしているようでおかしかった。

◇古河市エイブルスポーツセンタープール

屋内プールだが、屋外にはジャグジーもある。仰向けになって全身

をゆっくり伸ばし、ジェット水流に身を任せていたら、「お兄さん、私も一緒に入っていいかしら」と、ご婦人が身を寄せてきた。お兄さんなんて呼ばれたの、ここ四十年はなかったなあとニンマリ。

このご婦人、御年七十九歳だという。八十になったらしい区切りなので、免許証を返納しようと思っている。ただ免許証がなくなったら、プールには来れなくなってしまう。同居している長男の嫁に送迎してもらえばいいのだが、犬猿の仲でそれはできないという。問わず語りながら延々と続いた。

中学三年の時(?)に〈若いって素晴らしい〉って歌が流行っていて、クラスメイトであこがれのKさんが、はき掃除をしながらよく口ずさんでいたので今でも覚えている。歌っていたのが榎みちるさん。わたしより四歳年上なので、御年七十六歳。シンガーソングライターをしながら後進を育てていらっしやるこのことでまだまだお若いご様子。今でも〈若いって素晴らしい〉を歌ってらっしやるのだろうか。まさか〈老いるって素晴らしい〉はないよな。

◇栃木県立温水プール館(小山市)

市民プールで泳ぐ人を観察していると、上達度から三段階に分けられる。

【上級者】——むかしスイミングスクールに通っていたり、小・中学校あるいは高校の水泳部で活躍していたであろう人たちが、少数。



【普通の人】——この施設には、日本水泳連盟公認の二十五メートルと五十メートルプールがある。五十メートルプールでは、幾コースかが仕切られ、中学・高校・大学の練習場にもなっている。一般人（普通の人）も並行して泳ぐことは可能だが、イルカのようにカッコよく泳ぐアスリートの隣で泳ぐのは勇気がいる。多くの普通の人（シニア）は二十五メートルプールで、自己流でバシャバシャ。もちろん私もバシャバシャ組。

【初心者】——泳ぎをはじめたばかりの幼稚園児や小学生、高齢者もいらっしやる。床をあげた初心者用プールがあるので安全、安心。

◇古河市イーエス中央運動公園 プール

四つの泳法、クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライのなかで、バタフライがいちばんむつかしい。

バタフライで泳いでいるつもりらしいオバさんがいる。両手と顔が一瞬、水面から出るが、溺れて助けを求めているようだ。推進力もほとんどない。二十五mのコースを一分以上もかけ、それでもなかなかゴールに届かない。プールだからいいが、海だったら大変なことだ。「すわっ水難者発見！」……ライフセーバーが、救命具を抱え助けに向かうだろう。蝶の羽ばたきが連鎖し、世界を動かすかもしれないように、おばさんのバタフライが、地球の裏側でとんでもない事件を引き起こさないとも限らない。



◇ふたたび古河市イーエス中央運動公園 プール

おばさんといえば、彼女たちのコミュニケーション能力にはいつも感心。すぐに井戸端会議を始める。ウオーキングをしながらというグループもいるが、だんごのように三々四人で固まって話しこんでいる。コースの両端でおしゃべりが始まるとターンの時に邪魔になる。注意しようと思うのだが筆者、気が小さいのでなかなかできない。監視員も見て見ぬふりをしている。だからターンの時は、足を思いつき水面に打ちつけて、しぶきを彼女たちにプレゼントすることもあるが、蛙の面に〇〇、あまり効き目はないようだ。

男性はというと、ひとり一人修行者のように黙々とウオーキング。オバさん連中はどこのプールでも七々八割、数の上でも男性たちを圧倒している。

◇ふたたび古河市イーエス中央運動公園 プール

ひと泳ぎしたあと、空腹を満たすためにハンバーガーショップに立ち寄ることがある。土・日・祝日以外は平日価格、昼食を簡単・安価にすませられる。周辺にこれといった飲食店がないせいもあるが、店はいつ也大賑わい。

お客さんは、高齢の女性グループとか老夫婦が多い。高校、大学が近くにないため、ヤングにはめったにお目にかかれない。接客するお

店の人も高齢のご婦人で高齢社会の縮図をみるようだ。

なぜ高齢者たちが昼間からハンバーガーショップでたむろするのか。昼食の用意が面倒なのと、冷暖房完備で暇つぶしにはうってつけだからだろう。そして後ろのグループからこんな会話が漏れてきた。「入歯の具合が悪くて、大好きなタクワンでご飯食べるの諦めてるの。ハンバーガーつてその点いいわよね。てりやきチキンだって、ダブルバーガーだって、入歯オーケーだし、フライドポテトも大丈夫」

歯といえば、四十年も昔、赤羽線（赤羽——池袋間を走っていた路線。埼京線はまだなかった）の十条駅に、歯科医院の広告が掲げられていた。電話番号は（九〇八）八二四一。

私は当時、板橋区加賀町にある某会社の営業所に勤務していた。その広告を毎日、見るともなしに見て通勤していたので、自然に番号を覚えてしまっていて、なにかの拍子に、ふと口に出してしまうことがある。フランク永井（？）が〈西銀座駅前〉という歌謡曲（？）で「ABC・XYZ——これが俺らの口癖さ」と歌っているが、これと同じ心境かもしれない。電話番号の脇には語呂合わせで「来れば歯によい」。「伊東にゆくならハトヤ、電話は四一二六（よい風呂）」よりインパクトがある。（九〇八）八二四一、今はどうなってるのだろう？ 四十年前の話だ。とつくに廃院・廃番になってるだろう。駄目元でNETで調べてみた。そしたら、まだあった。「〇三（三九〇八）八二

四一 金高齒科 北区・上十条・十条駅。そうそう金高齒科だった、失礼ながら治療代ばられそうだなと思ったりしたこともあった。一九八〇年に金高院長が開業、今に至っているそうです。

◇古河市イーエス中央運動公園 プール

素粒子や分子などのミクロの世界から、地球・銀河系などのマクロの世界まで、自然界には常に右と左の関係が存在している。生命の世界でもDNAの螺旋構造から始まって、植物のツルの左巻・右巻問題、左脳と右脳、左利きと右利きの存在などさまざま。左と右の関係はどちらが優位かというテーマでもある。

運動会でも陸上のトラック競技でも、むかしから左回りと決まっている。競輪、競艇然り。競馬の場合は右回りのレースもあるが、競争馬の骨折事故が多いらしい。

カタツムリの貝殻は基本右回り、七〇〇〇分の一の確率で、左巻が出現するらしいが、身体の構造上、左巻のカタツムリは左巻のカタツムリと、右巻のカタツムリは右巻きのカタツムリとしか交尾ができないため、左巻のカタツムリが増えることはないらしい。

左と右になぜこだわるのか。クロール、左側に顔をあげてする息継ぎはなんとかできるのだが、右からの息継ぎがなかなかうまくできない。体幹を中心に、右と左ほぼ対称のはずなのに、右に顔をあげて息継ぎをしようとするとまるで初心者、バランスを崩し最悪水をゴボゴ

ボと飲んでしまうのだ。自転車も進行方向に対して左側からは乗れるのに、右側からはうまく乗れない。

◇今後の目標

今後の目標はクロールで右からの息継ぎ、そしてみっともない程度にバタフライをマスターし、二十五メートルを泳ぎきれるようになること。

